

ソーシャルイベント研究会レポート（1月24日）

- ・日 時 平成27年1月24日(水) 14:00～16:30
- ・会 場 目白大学

【出席者】8名

座長：小林政則（イベント支援ネットワーク）
内田なお子（昭栄プリント）、沖佳保里（コブタカンパニー）、
加藤淑子（エンコーポレーション）、近藤真司（月刊社会教育）、
澤内隆（観光交通プロデュース）、下村卓爾（パナソナ）、
宮地克昌（東京観光専門学校）

内 容



今回の研究会では、目白大学社会学部地域社会学科で継続的に実施（第7回目）されている公開シンポジウムに参加。同大学の学科長、学長の挨拶に始まり、大船渡津波伝承館の齋藤賢治館長、仙台市の奥山恵美子市長より発表された、復興状況等の報告を聴講。さらに、齋藤館長と奥山市長に加え学生や来場者との意見交換を行うフォーラムに参加した。

「目白大学 地域フォーラム」

テーマ「震災復興に向けた地域の力・文化の力」

—4年目を迎える震災復興で今何が必要なのか—

齋藤賢治館長の報告

「映像から見る大船渡の津波被害と伝承館の役割」

齋藤賢治館長が撮影した、震災直後から大津波に襲われるまでの映像を中心に、大船渡市の中心地である沿岸部が大津波に飲み込まれるまでの状況説明が行われた。

また、被災後に齋藤館長が収集したデータによって、津波で亡くなった人の約65%は避難することで助かった命であることを解説。地震が発生した際には、適切な避難がいかに重要であるかを訴えた。



奥山恵美子市長の報告

「仙台市における復興事業と文化の力」

津波被害にあった東部エリアで進む、1500世帯の防災集団移転の進捗状況等を説明。また、震災直後から市民の心の復興に貢献してきた、仙台市の文化の力を解説。楽天イーグルス、ベガルタ仙台によるチャリティイベント、避難所やお寺の本堂などでミニコンサートが続けた仙台フィルハーモニー、東北六魂祭などの活動を報告した。



フォーラム

学生有志や来場者との意見交換を行った、齋藤賢治館長と奥山恵美子市長。

齋藤館長からは「被災時の生活にはアウトドアの知識と経験が役立った」、奥山市長からは「学生さんには被災したお年寄りの話を聞きにきて欲しい」とのメッセージも。



当日出席の皆さん。

以上